

# 日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2015年度 助成者)

作成日 2015年 9月 27日

氏名	中村 はるか
研修先機関名	<u>Hawaii Tokai International College</u>
研修期間	2015年8月17日(月)～22日(土)
大学名	慶應義塾大学
学年	5年

今回5日間の Hawaii Tokai International College での研修を通し、医学英語、英語知識の習得はもちろんのこと、様々な出会いや病院見学など、多方面に渡って得難い経験をさせて頂きました。

私にとってこのプログラムへの参加は大きな挑戦でした。というのも、大学に入学してから今まで4年間と少しはクラブ活動に没頭し、勉強は二の次、文化活動には全く触れたことがないという生活を送ってきたからです。自分の大学で来年に海外での病院実習を控えており、医学英語に触れる良いきっかけだと思い、勇気を振り絞って応募することに決めました。今研修を終えて1ヶ月が経過し、改めてハワイでの日々を振り返ると、あの時に勇気を出して参加を決めてよかったと心から思います。

このプログラムで一番充実していたと感じるプログラムは、患者に扮したハワイ大学の学生に対して一対一で問診をとり、英語で case presentation を行うというものでした。はじめは英語を使う自分に照れもあり、言葉がスムーズに出でこず、コミュニケーションをとるのに苦労しました。しかし毎日繰り返し練習することで少しずつ改善されていき、先生方からの充実したフィードバックを活かして、最後には自分なりの英語での問診の型を見つけることが出来たと思えました。英語での output で成長を感じることは、普段の日本での病院実習では得難いもので、今後につながる素晴らしい経験だと感じました。

またハワイで働いていらっしゃる日本人医師のお話を伺い、病院を見学することで、海外で医師として働く具体的な姿を知ることが出来ました。

このプログラムで得たもので一番大きかったと感じるのは他大学の学生との出会いです。それぞれの目標を胸に高いモチベーションで医学英語を能動的に学ぼうとする同級生達の姿は非常に刺激的で、感化される部分も大きくありました。自分が普段いかに狭い世界で過ごしているかを痛感しました。プログラムが終わって一番強く感じた思いは、医学英語も医学知識も自分の大学に帰ってもっと必死になって頑張らなければならないというものでした。優秀な他の参加者の存在があつてこそ、このような今後につながる影響を受けることが出来たと思います。

ハワイは土地柄、日本人への理解が深く、温厚で寛容な方ばかりで、英語を学び始める土地として最適だと感じました。英語力に不安を感じる方も、このプログラムへの参加を通して一步を踏み出して欲しいと強く感じます。

恵まれて体験をさせて頂き、この1週間で多くのことを得ることが出来ました。今後も勉強に励み、今回の経験を活かしていきたいと思えます。最後になりましたが、多くのサポートをくださった東海大学、神戸大学の先生方、ハワイでお世話になった先生方、Hawaii Tokai International College の職員の皆様、助成をくださった日米医学医療交流財団の方々々に心より御礼申し上げます。